

# アムスルだより

No. 6 1994年 3月10日

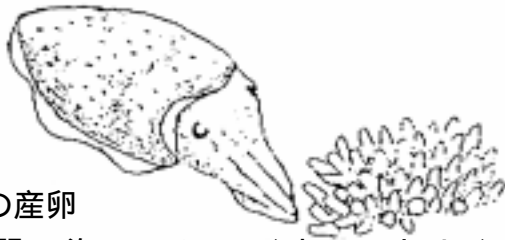
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

TEL:098-987-2304

FAX:098-987-2875



## イカの産卵

慶良間の海で、シロイカ(アオリイカ)やコブシメなどのイカは、冬には大きく成長し、交接・産卵のため岸に近づきます。皆さんもよく食べられると思いますが、とっても美味しいですね。そこで今回はイカの産卵についてお話ししましょう。

イカはサザエなどの貝と同じ軟体動物ですが、自由に泳ぎ回るために貝殻が退化し、代わりに外套膜という外側の筋肉が発達したものです。そして、タコと同じく、頭の前に足がある頭足類に属します。アオリイカのように、よく泳ぐ種類のイカほど外套膜が発達しており、美味しいといわれています。ご存知のように、イカには腕が10本ありますが、このうち2本は餌を捕えるために発達した触腕です。

イカの愛の儀式は腕で行います。雄には触腕の他に、形が特殊化した1本(種によっては2本)の腕があり、これで精子のつまった精包を壊さないように雌に渡します(交接)。そして雌イカは受け取った精子で卵を受精させながら産卵するのです。

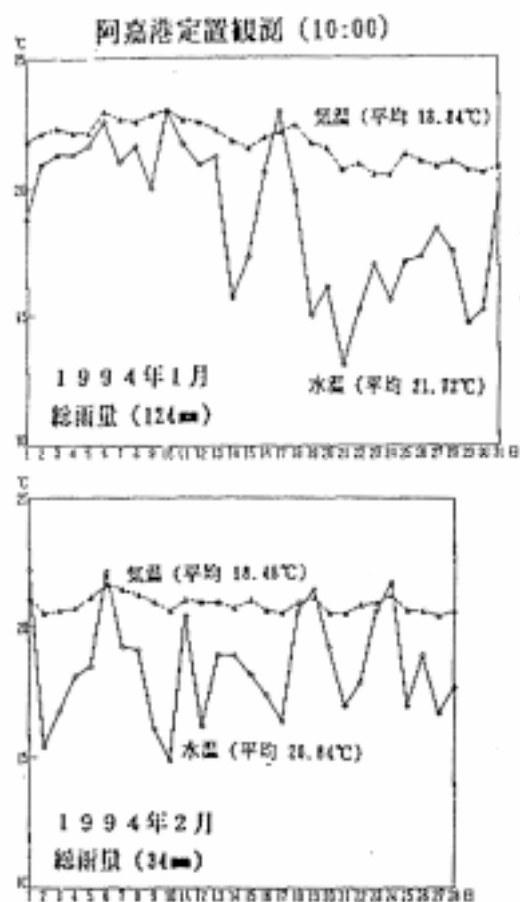
産み出す卵の形や大きさは、種類によって違います。イカ類で最も大きな卵を産むのはコブシメで、直径1~2cmの白いピンポン玉のような卵を、一つずつ枝サンゴの間に産みつけます。この卵は孵化前にはさらに直径3cmほどにまでふくらみます。またアオリイカは直径5mmほどの卵が入った、サヤインゲン豆のような形の白い卵のうを産みます。この卵のうには、卵が5~9個入って海藻などに産みつけられるタイプと、2個しか入ってなく、岩の下などに産みつけられるタイプの2タイプがあります。このことから、アオリイカは2タイプいるらしいことが最近わかってきました。昨年5月には阿嘉漁港の中でソデイカの卵塊を発見しました。沖縄ではセーイカと呼ばれ、食用とするソデイカは、胴がひし形をした巨大なイカですが、卵は小さく直径2mmほどです。この卵塊は、太さ15cm、長さ約1mのソーセージ型をした寒天質で、中には数万個という卵が螺旋形に並んでいました。卵塊は海面を漂いながら孵化すると考えられます。外洋性であるソデイカの卵塊が見つかることは珍しく、生態についてはよくわかっていません。卵塊を見つけた方は是非研究所までご一報下さい。

やがて卵の膜を破いて、イカの赤ちゃんが飛び出します。生まれたイカの赤ちゃんは、多くの種で親とだいたい同じ形をしています。コブシメは生まれた時から胴長が1 cmほどもあり、すぐに親と同じように、サンゴ礁で小魚などを捕えて食べます。とても大食いで、時には自分の体より大きい魚でも捕えて食べることもあります。以前に研究所で、コブシメの赤ちゃんを飼育しましたが、生きた餌にしか興味を示さず、餌づけが大変でした。一方アオリカの赤ちゃんは胴長が6 mmほどで、しばらくは流れ藻などに付いて、海面近くを漂っています。そして成長とともに、群れて泳ぐようになります。

多くのイカは成長がとても早く、生まれて1年で産卵するようになります。そしてほとんどの場合、産卵の大任を果たした後、精根つきで短い一生を終えるのです。しかしコブシメは2年から数年生きるため、かなり大きくなり、重さ20 kgに達することもあります。巨大なソデイカも、1年で成長するとは考えられにくいのですが、何年生きるかはよくわかっていません。これらのイカが毎年産卵し、育つ豊かな慶良間の海を末永く守っていききたいものです。

#### 阿嘉島の海より -浜下り-

春の訪れとともに、気温と水温は徐々に上がってきました。今の時季の大潮は1年で最も潮の干満差が大きく、島のおばさんたちが潮の引いた海岸に下り、獲物を採る姿をよく見かけます。旧暦の3月3日(4月13日)には、



浜下りの行事が行われることでしょう。

干上がったリーフには、ウニ・タコ・サザエなど、たくさんの生き物が見られますね。一昨年の調査では、アゴノハマのリーフの中で、夜光貝の稚貝を見つけました。夜光貝は小さい頃、リーフ内の浅瀬に棲んでいると思われませんが、今までに1つしか見つからないので、はっきりと言えません。夜光貝の稚貝を見つけた方は、是非研究所までお知らせ下さい。

研究所では夜光貝の増養殖の研究をしています。夜光貝の餌にするため、先日ハワイからオゴノリという海藻を持ち帰り、今これを増やす実験をしています。5月10日発行予定の次号では、夜光貝についてお話ししましょう。